



江戸期 徳川將軍家の別邸があった浜離宮恩賜庭園（東京都港区）

高梨 市民参加型の公園は、物理的な空間づくりと、管理の仕方、ふたつの課題がありますね。

松田 使う側の自主管理と行政側の管理のバランスが大切なんじゃないかな。

高梨 ソーラーとか雨水の利用も最初からつくってしまおうのが良いのか、できたあとの過程で市民と取り組むのが良いのか、どうでしょう。

松田 地域住民が選べる環境をつくるのが大切なんじゃないかな。住民が利用したいと思った時に後付けできるような余地を残しておくのが良いのではないですか。

高梨 公園の計画、設計、整備、管理運営という一連の時間軸の中で、いままでの取り組みと違う市民の視点を持ち込むことではないかな。

涌井 防災公園にしても確かに松田さんのお考えを実現していかなければという反面、万が一を見せずに、万が一に対応できる機能を備えていることが望ましいですね。例えば都市公園、港区では40年間行政が鋭意整備してきた面積をはるかに超えた公開空地が、総合設計制度により民間の手で生み出されているのです。公開空地は公でも私でもなく、コモンといって良いでしょう。問題はその市民化です。ではどうするか、

境都市」をいま一度目指すべきでしょう。その理想への決意が景観として表現される場が公園なのではないでしょうか。もうひとつは都市の主人公は誰かという原点の確認です。市民が主人公であるならば、住区基幹公園は徹底的に地域住民に開放すべきで、そうでないと松田さんのお話のように公園はあるだけで、身近な存在になりません。いま公園に犯罪等の、社会的なゆがみが現れることがあります。なぜか、地域の市民が公園を愛していない、自分たちの公園という意識を持たせていないからですね。ですから、この公園は国際都市を象徴する公園だ、ここは市民と共にある公園だ、という使い分けがそろそろ必要です。ただし両方に共通するのは地域らしさを表現する景観的配慮でしょう。ただ楽しいだけでなく美しくも重要で、それは市民と共に

高梨 公園は都市の環境のあり方を代表するシヨールームですね。私もUR都市機構の公園づくりは、地方公共団体の要請を受けて取り組みますから、いま分水嶺に至っている公園づくりについて、知見を集約し、新しい技術も開発する、計画と建設だけでなく管理運営にもパトナタッチしていく視点を持ってしっかりと取り組んでいきたい。特に市民のニーズにこたえることが重要で、地域社会の人口構造によって変

考えていくことだと思えます。いま、「遠隔ドッグラン」という現象が起きていて、六本木ヒルズやミッドタウンに郊外からペットを連れてきて散歩を、自分を高揚させるというのが流行となっています。都市にはこうした劇場性を持つ空間も、また人臭い路地裏空間もなくてはなりません。

高梨 愛・地球博記念公園で、新しい試みをはじめられたとか。

涌井 ひとつの実験です。公園の管理体系として公園マネジメント会議というテーブルをつくったのです。日本ではじめて、設置者の県と対等で、指定管理者・大学・地域住民・NPO・NGOが運営管理の議論をし、必要ならば労役や費用の負担もするというもので、公費でファシリテーター（議論の促進役）を置きプロデュースします。公園の未来への決意表明をし、市民に開く民主化への手だての確立を図りたい。いま公園は分水嶺にさしかかっているのです。

市民が楽しめるように設計するのでも良いし、地区の景観的なモデルになる空間を強調するのでも良い。しかしその芯には、自然にやさしく都市環境に貢献し、防災の機能、都市景観の創出の機能を隠し味として持つ、確固とした存在感を示すべきでしょうね。中には鋼鉄のように硬い存在効用を、周りは極めて柔らかい利用効用に覆われている、そういうスタイルの公園が望ましいですね。

高梨 一方で地域社会の人口構成が変わって子供たちがいなくなった、もう児童公園は要らないともいわれます。しかし少なくとも子供にとっても高齢者にとっても公園は必要です。地域社会は多様多彩ですから、機能主義で考えてしまおうのはどうか。松田さんの目線ではいかがですか。

松田 ライフスタイルが年齢と共に変化するにつれて、公園の利用目的が変わってきます。子育ての時期には、子供と一緒に寝転んだり走り回ったり、高年齢になれば、公園に安らぎの場を求めたり、年齢やライフスタイルにとらわれない、多種多様な地域社会にしっかりと根付いた「使える公園」であって欲しいと思います。地域の公園は、その地域の住民に利用されながら育



貯水槽 備蓄倉庫 非常用トイレなど防災機能を備えた末広中央公園（兵庫県宝塚市）

求めたり、年齢やライフスタイルにとらわれない、多種多様な地域社会にしっかりと根付いた「使える公園」であって欲しいと思います。地域の公園は、その地域の住民に利用されながら育

公園のあり方 2つのベクトル

つていくもののように思います。

高梨 オープンガーデンの本を出された時、不安だったそうですね。

松田 そうですね。オープンガーデンガイドブックは全国の参加者の個人情報がすべて掲載されるわけですから心配な点もありました。そんな時、小布施の、当時の町長唐沢さんにお聞きしたところ、全国からたくさんの方が訪れてくれるようになって、逆に人の目がセキユリテになり、安心で安全な街になりました」ということでした。そんな話を聞いてあぁ人って良いな、最終的には人間だなと思いました。公園だって誰もが使え、いつも人の出入りがある、それが理想かなと思います。

高梨 生活の一部としての公園かどうかは、楽しさが重要な要素と思うのですが、これから生態環境都市に向けてどんな戦略を描いたら良いのでしょうか。

涌井 公園とか緑地をめぐるベクトルは2つあって、ひとつは持続的な経済発展への貢献です。いま世界は都市間競争の時代です。つまり都市に個性と魅力があるかないかが国際資本の投資とリンクされています。それには公園緑地の景観が果たす役割が非常に大きいと思うのです。21世紀、日本の都市づくりの目標、世界に冠たる「生態環境化する」ニーズをも織り込んだ、いままでなかった公園計画にもチャレンジしたいと思えます。

涌井 UR都市機構ほど地域市民と関わっている組織はなく、建替えとかタウンマネジメントから生まれる情報と知見はとて大きい、かたや大規模跡地開発を含め産業社会との関わりも密接で、この両面での計画・建設・管理運営のノウハウを持てるのはUR都市機構だけでしょう。この組織の意義と役割を社会に強くアピールする必要がありますね。公園という自然資本と社会資本の共存へのUR都市機構の今後のトライアルを大いに期待したい、これは率直な応援歌です（笑）。

高梨 難しいテーマにご意見をいただき、UR都市機構への励ましの言葉もいただきありがとうございます。



佐野記念公園(佐賀県佐賀市)
面積約4haの地区公園。郷土の偉人で、日本赤十字社の創始者である佐野常民の生涯を通じて、郷土の歴史と伝統、自然環境等が学べる体験学習施設を整備。早津江川を基軸とした地域交流拠点を形成。



広公園(広島県呉市)
面積約4.1haの地区公園。園内に防災拠点機能を併せ持つ体育館が整備されており、呉市東部地区の広域避難地に指定されている。桜並木により、地域における花見の名所としても親しまれている。



末広中央公園(兵庫県宝塚市)
市役所に隣接する武庫川沿いのグランド跡地を防災公園に転換。面積約4.2haの地区公園で、災害時にはヘリポートとして使用可能な芝生広場や災害応急対策施設(非常用トイレなど)を整備。



宇治市植物公園(京都府宇治市)
都市緑化植物園を中心とする面積約10haの総合公園。単なる陳列的・学術的な植物園ではなく、歴史的庭園文化の地を背景に、地域の歴史・風土・地形を生かしたレクリエーション空間を整備。



みなくち総合公園(滋賀県甲賀市)
面積約34.3haの総合公園。里山の自然を生かした、自然観察や体験活動のできる空間を整備。体験農場では、年間を通じて米や蕎麦、野菜を栽培している。



大津湖岸なぎさ公園(滋賀県大津市)
大津港より湖岸沿いに続く約4.8kmの公園。護岸の整備にあたり、水質浄化機能や生物の生息環境、景観や市民生活に対して配慮。都市防災機能強化のため、過密都市でのオープンスペースを湖岸に創造。



おだい
於大公園(愛知県東浦町)
面積約12.1haの総合公園。緩やかな丘陵の地形や水辺を生かして、広場や遊具、園路を配置。緑の相談所(このはな館)やプールも整備されたレクリエーションの拠点でもある。



ひょうのうけ
上納池スポーツ公園(愛知県日進市)
面積約3.2haの地区公園。地域の防災拠点としての機能を併せ持つ体育館、グラウンド、テニスコートなどを整備。体育館は道路側の壁面を緑化。